

# 国際観光都市 「日光」はいま

東日本大震災後、さまざまな活動の自粛や風評被害により、観光客が著しく減少するなど、市の観光は深刻な状況になっています。今回は、被災地域に配慮しながらも、観光の活性化につなげようとしている誘客活動などの取り組みについてお知らせします。

くわしくは 観光振興課 誘客推進係 ☎(21) 5170

## 日光市女将の会

日光市女将の会は、今まで鬼怒川温泉や奥日光湯元温泉、湯西川温泉など各地域にあつて個別に活動していた女将の会を一本化し、宿泊客に直接接する女将から、世界に誇れる日光の魅力を広く発信しようとする組織

されたものです。

8月4日に、日光市女将の会設立総会が日光東照宮客殿で行われ、会員数74名の団体が発足しました。

今後は、市内の女将の輪を広げ、市の観光の発展のため、女性ならではの知恵とパワーで、市への誘客促進に向けた取り組みに参加していきます。



女将が神橋に勢ぞろい

## 日光市女将の会 白井静枝会長に伺いました。



日光市女将の会は、各地域の女将の会が一つになることで、日光市のためにはという思いから発足した会です。まずは、それぞれの宿がナンバーワンを競い合うのではなく、その宿の特徴を生かした、その宿ならではの「オンリーワンの宿づくり」を目指すことが大切であり、集客につながっていくのではないのでしょうか。この会を通じてそんな宿づくりが広がってくればいいですね。お客様に満足して帰っていただければ、お客様自らが「営業マン」となり、日光を広くPRしてくれるはずですが、

日光市女将の会は発足したばかりですが、今後は勉強会や研修旅行、誘客キャンペーンも積極的に行っていきたいと思っています。

被災者等宿泊費助成事業  
震災後、市内の有料宿泊施設に避難された方々に対し、宿泊料大人1人1泊につき1,000円、子ども1人1泊につき500円の助成を実施しました。

## 震災後の誘客対策

被災者等宿泊費助成事業  
震災後、市内の有料宿泊施設に避難された方々に対し、宿泊料大人1人1泊につき1,000円、子ども1人1泊につき500円の助成を実施しました。

助成制度は、市内28施設、延べ844名の方が利用しました。

## 震災後の誘客対策

売店50社を訪問して市の安全性を訴えるなど、誘客活動を行ってきました。

また、市単独はもちろん、県およびJR東日本、東武鉄道、市内観光関係者とも連携を図り、首都圏を中心に誘客キャンペーンを展開し、市の安全・安心を前面に出した観光PRに取り組んでいます。首都圏、長野キャンペーンでは、市長自ら参加しトップセールスを行うなど積極的な誘客の取り組みを行っています。



誘客キャンペーンの様子

## 国外からの誘客

震災以降、日本の観光地から外国人観光客が激減しました。そのため市長は5月に、台湾の台北市や観光友好都市協定を結んでいる台南市を訪問。風評被害払拭のため、台湾市民に向けてラジオ放送で日光の安全性

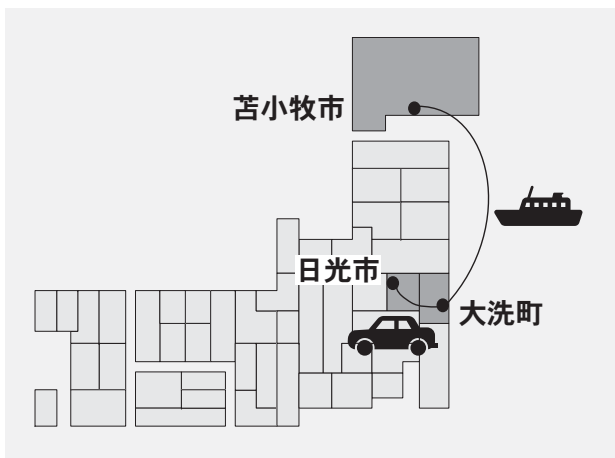
## 観光パートナー都市協定締結

3月19日に北関東自動車道が全線開通したことにより、市から茨城空港や茨城港へのアクセスが向上し、物流効果が格段に高まりました。

また、大洗町と苦小牧市を結ぶカーフェリーが週12便体制で運航しており、北関東地域および首都圏と北海道間の物流・人流拠点としての

機能も高まっています。

このような中、7月7日に苦小牧市・日光市・大洗町が、カーフェリーや空港、北関東自動車道を活用し、観光客の誘客推進につなげようと、フェリー「さんふらわあふらの」の船上において観光パートナー都市協定を締結しました。



今後は協定に基づき、地域の資源や特性を生かした満足度の高い通年型観光地づくりを目指し、3市町共同で首都圏での誘客宣伝や観光展の共同出展、新たな周遊ルートの企画・提案、相互の地域で実施する観光イベントへの参加など、連携したプロモーション活動を行っていきます。

市では、国内旅行者はもとより、外国人旅行者についても激減が予想されます。

【観光パートナー都市の紹介】

■北海道苦小牧市 アイスホッケーを中心として交流のあった旧日光市が、昭和57年に姉妹都市協定を締結。平成18年10月には再盟約を結びました。

■茨城県大洗町 平成22年7月、大洗港振興協会と日光地区観光協会連合会が日光・大洗港フルーフ船誘致協議会を設立。相互に観光振興を行っています。

昨年まで、順調に推移していた国内、国外の観光客を呼び戻すため、今後も積極的な誘客活動を継続して実施し、観光関係者の皆さんと力を合わせさまざまな観光の取り組みを行っていきます。